

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	保健福祉部国保年金課		■担当係	国保係
■評価事業名称	人間ドック等補助金			
■事業開始年度				
■評価事業コード	040100 - 015	■会計区分	国民健康保険特別会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	01 子育てと医療・福祉の充実した明るく健やかなまちづくり		
	■基本施策	03 健康づくりの推進と地域医療の充実		
	■施策	02 病気の予防、早期発見、早期治療の推進		
■事業の類型	06 負担金・補助金(任意・ソフト事業)	■政策・業務区分	政策	
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称	北上市国民健康保険人間ドック受診料補助金交付要綱			
■関連計画の名称	国民健康保険保健事業実施計画			
■事業の目的と概要	疾病の早期発見、早期治療に努めることにより、被保険者の健康を維持するとともに、療養給付費の抑制を図る。人間ドックを受診した国民健康被保険者への助成			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成29年度事業計画	平成29年度事業量実績
01	人間ドック等補助金	19歳以上の国保被保険者	受診者数 (人間ドック260人) 支給総額5,200千円 【当初予算額】	受診者数 (人間ドック254人) 支給総額5,054,600円

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
直接事業費	4,944	4,933	4,783	5,055	
人件費	1,759	2,234	826	1,831	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	6,703	7,167	5,609	6,886	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	指標の説明
01	人間ドッグ及び脳ドッグの件数	251	251	235	254	各年度の人間ドッグと脳ドッグの受診件数である。目標値は前年度実績値の5%増とした。
03	保険給付費の伸び	326,835	342,464	346,429	356,472	当該年度保険給付費(費用額)÷当該年度末被保険者(被保険者一人当たりの保険給付費(費用額))

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

被保険者数が減少している中、例年並みの申請数であった。

問題点・課題等

市の広報や、申請者の9割を占める農協を通じて広報を行っているが、制度が浸透しきっていない。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響

- 大きな不利益やリスクが生じる
- ある程度の不利益やリスクが生じる
- 不利益やリスクは小さい

4. 市民生活・企業活動への影響

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持の向上に必要
- 市民生活・企業活動の維持の向上への影響は少ない

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2.4の補足説明含む)

健康に対する意識が高い人ほど利用する傾向があり、医療費増を抑えるためにも継続が必要な事業である。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了